

### 国語③ 複数の資料を読み、分かったことや考えたことをまとめること（言葉の変化）

3

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、まとめるごとにしました。【資料1】をよく読んで、あとの問い合わせに答えましょう。

【資料1】

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなったり、使い方が変わったりする場合は少なくありません。ですから、意味や使い方に慣れが生じて、「この使い方が正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。(1)この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせずに、代わりに、(2)「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にどくめています。言葉の正誤を軽々しく決ることはできないと考えるからです。

とはいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。(3)コヨニケーションの使い違いを放置しておくわけにもいきません。

「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

(文化庁国語課「文化庁国語課の動向」による)

※1 「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。

※2 「短絡」……………よく考えもせずに、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。

※3 「文化庁」……………文化芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関。

木村さんは、【資料1】を読み、次の「木村さんの経験」を思い出しました。木村さんが経験を通して気づいたこととして最も適切なものを、あと1から4までのなかから一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 時代とともに言葉の意味が変わること。

2 時代とともにもの使い方が変わること。

3 世代によってもの呼び方がちがうこと。

4 世代によって言葉の使い方は変わらないこと。

【木村さんの経験】



木村さんは、【資料1】を読み、次の「木村さんの経験」を思い出しました。木村さんが経験を通して気づいたこととして最も適切なものを、あと1から4までのなかから一つ選んで、その番号を書きましょう。

【あだじい】は新しい形

「ふくらぎ」ということは、「ふくらぎ」という人が多くなりました。こう書つて、「たいへん、日本語がわかれてしまふ」と思う人がいるかもしれません。でも、心配しないでください。にたようなことは、昔からよくあることです。【文化庁国語課「文化庁国語課の動向」による】

「あだじい」は、大昔から使われてきました。ところが、次の平安時代には「あらたし」が「あだじい」になりました。「だ」と「ら」の順番が入れかわつてますね。つまり、「あらたし」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、「あらたし」は「あだじい」になりました。

(飯間浩明「日本語をつかまえろ!」による)

【資料2】

木村さんは、【資料1】を読み、言葉は年月とともにどのように変化をするのか調べたいと思いました。そこで、次の【資料2】と【資料3】を読み、分かったことをあとの【木村さんのメモ】に整理しています。これらをよく読んで、あとの(1)と(2)の問い合わせに答えましょう。

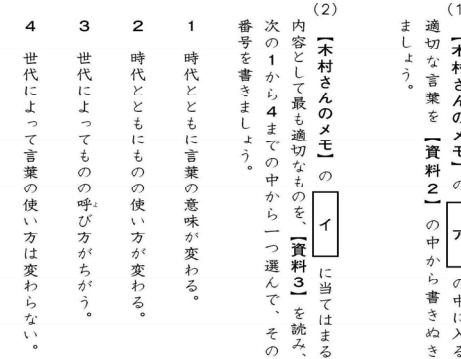
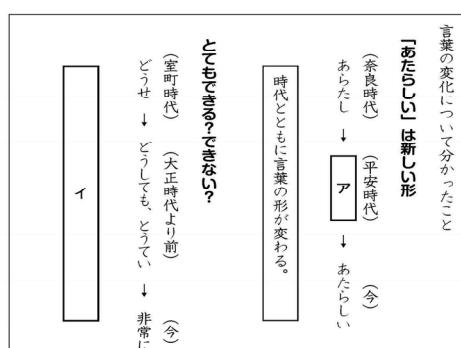
【資料3】

【あだじい】は新しい形

「ふくらぎ」ということは、「ふくらぎ」という人が多くなりました。こう書つて、「たいへん、日本語がわかれてしまふ」といふが、1000年ほど前の平安時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」「とてもまだまらない」のよう、「とてもしない」という形で言つたのです。つまり、平安時代よりも前は、「勉強がとてもできる」とは言わなかった。でも、その必要はありません。【文化庁国語課「文化庁国語課の動向」による】

「ぼくには、そんなことはとてもできない」と言つていても、「どうしても」「どうしても」といふ意味を表します。この場合の「とても」は、「どうしても」と「どうして」のよう話を聞くと、「じゃあ、これからは「とてもできない」と言おう、「とてもできる」とは言わないようにしよう」と思うかもしません。でも、その必要はありません。もっと古い時代、室町時代には、「とても」は「どうせ」の意味で使つてました。たとえば、「とても散るべき花」と言えば、「どう散る花」という意味です。ことは昔の意味で使つたら、現代では暮らせなくなってしまいます。「昔はどううつかをることは大事ですが、現代ではどう使つているか」を理解することも大事です。現代の人は、ことは現代の意味で使うのが一番いいのです。

(飯間浩明「日本語をつかまえろ!」による)



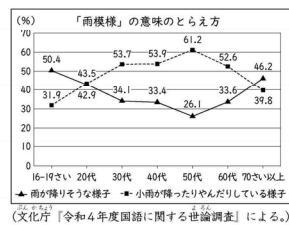
三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。

次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の間に答えましょう。

### 【話し合いの様子】

ほくが読んだ二つの資料【資料2】、【資料3】には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

### 【資料4】



(文化庁「令和4年度国語に関する世論調査」による)

(1) 【話し合いの様子】の[A]に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 【資料1】の[A]部①
- 2 【資料1】の[A]部②
- 3 【資料1】の[A]部③
- 4 【資料1】の[A]部④

言葉の変化について、いろいろな考え方があるんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なつとくしたことをまとめよう。

木村さん

私は、この資料【資料4】を見つけたよ。これを見ると、世代によつて、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがあることが分かるでしょ。本当だ。三十代から六十年代は本来の意味とはちがう。小雨が降ったりやんだりして、「の様子」ととらえている人の割合が高いね。

田中さん

【資料1】に「[A]」と書かれているとおりだと思うよ。

木村さん 田中さん 木村さん 田中さん 木村さん

(2) 木村さんは、【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が一番なつとくしたことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。

あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

### 【条件】

- 言葉の変化についてなつとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なつとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

--	--	--	--

## 出題の趣旨

文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見付けるためには、読む目的を明確にすることが大切である。また、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることも重要である。その際、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることや、複数の資料を結び付けながら読むことが求められる。このようにして、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりすることは、自分の考えを形成することにもつながっていく。

本問では、言葉の変化について学ぶために、みんなで共通の資料を読み、一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことや考えたことをまとめる場面を設定した。木村さんは、言葉が年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思い、複数の資料を読んだり、友達と話し合ったりしながら、自分が納得したことについてまとめている。ここでは、木村さんの立場を通して、文章全体の構成を捉えて要旨を把握するとともに、目的に応じて、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりし、分かったことなどをまとめることが求められる。また、【木村さんの経験】を基に、世代による言葉の違いに気付くことも求められる。

なお、過去の調査結果で見られた課題と関連する設問は、以下のとおりである。

- 設問三(1)及び設問三(2)は、令和5年度【小学校】国語2ニ（正答率67.6%）において、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」に課題が見られたことを踏まえて出題した。

また、本調査で初めて取り上げる内容に関する設問は、以下のとおりである。

- 設問一では、第5学年及び第6学年の〔知識及び技能〕の(3)我が国の言語文化に関する事項の「言葉の由来や変化」に関する指導事項を取り上げている。この指導事項を本調査で取り上げることは初めてである。

### ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。

## 設問一

### 趣旨

時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる。

#### ■ 学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

ウ 語句の由来などに关心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型			反応率 (%)	正答
3 一	1	1	と解答しているもの	9.4	
	2	2	と解答しているもの	6.2	
	3	3	と解答しているもの	81.3	◎
	4	4	と解答しているもの	1.6	
	99	上記以外の解答		0.1	
	0	無解答		1.3	

### 2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は81.3%であった。今回の結果から、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことはできていると考えられる。
- 解答類型1と解答類型2は、木村さんが、世代によってものの呼び方が違うことに気付いたと捉えることができなかったと考えられる。これらの中には、「時代」と「世代」の言葉の意味を理解することができなかった児童や、「かわや」、「便所」、「トイレ」というように、ものの呼び方が変化しているということを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

### 3. 学習指導に当たって

#### 世代による言葉の違いに気付く

- 年配者と、年少者や若者には、それぞれの世代に特有の言葉遣いがある。それらの存在に気付き、世代間の親近感やつながりを強めるという役割を意識させた上で、例えば、若者の言葉が、使える場合と使うべきではない場合とがあることや、世代によってものの呼び方が違う、コミュニケーションに食い違いが起きる場合があることを理解しておくことが大切である。

本設問では、世代による言葉の違いがあることを理解した上で、「かわや」、「便所」、「トイレ」というように、世代によってものの呼び方が違うことに気付くことが求められる。学習指導に当たっては、世代によって呼び方が違うものを集める活動をしたり（「寝巻き」「パジャマ」、「えもんかけ」「ハンガー」など）、異なる世代にインタビューをする活動をしたりしながら、それぞれの世代に特有の言葉遣いがあることを考えられるように指導すると効果的である。

## 設問二(1)

### 趣旨

時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる。

### ■学習指導要領における内容

- [第1学年及び第2学年] 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと  
ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。

### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型			反応率 (%)	正答
3 二 (1)	1 99 0	「あたらし」と解答しているもの 上記以外の解答 無解答		81.8 15.4 2.8	◎

### 2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は81.8%であった。今回の結果から、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることはできていると考えられる。

### 3. 学習指導に当たって

#### 時間的な順序などを考えながら、内容の大体を捉える

- 時間的な順序とは、時間の経過に基づいた順序のことである。内容の大体を捉えるためには、時間的な順序などを考えながら読むことが重要である。

本設問では、【資料2】を読み、「あたらしい」という言葉の形が時代とともにどのように変化したのかについて、時間的な順序を考えながら読むことが求められる。

学習指導に当たっては、時間的な順序を表す言葉（「昔」、「今」、「次」など）、時を表す言葉（「奈良時代」、「平安時代」など）に着目し、その言葉に印を付けながら読んだり、大事な言葉を抜き出し、矢印でつなげたりするように指導することが考えられる。

## 設問二(2)

### 趣旨

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる。

#### ■学習指導要領における内容

- [第5学年及び第6学年] 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと  
ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型			反応率 (%)	正答
3 二 (2)	1	1 と解答しているもの		51.5	◎
	2	2 と解答しているもの		14.5	
	3	3 と解答しているもの		26.5	
	4	4 と解答しているもの		4.7	
	99	上記以外の解答		0.5	
	0	無解答		2.4	

### 2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は51.5%であった。今回の結果から、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題があると考えられる。
- 解答類型2は、【資料3】を読み、「とても」という言葉の変化について、「時代とともにもの使い方が変わる」と捉えており、「時代とともに言葉の意味が変わる」という捉えることができなかったと考えられる。この中には、時代とともに変わることは理解することができたが、それが言葉の意味であるということを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。
- 解答類型3は、【資料3】を読み、「とても」という言葉の変化について、「世代によるものの呼び方のちがい」と捉えており、「時代とともに言葉の意味が変わる」という捉えることができなかったと考えられる。この中には、【資料3】の内容の中心となる事柄を捉えることができなかった児童がいたと考えられる。また、【資料3】を読まずに、【木村さんの経験】を基にして考えた児童もいたと考えられる。

### 3. 学習指導に当たって

#### 文章全体の構成を捉えて要旨を把握する

- 要旨とは、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄などである。要旨を把握するためには、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成を捉えることが重要である。

本設問では、【資料3】から、「とても」という言葉が、室町時代は「どうせ」、大正時代より前は「どうしても、とうてい」、今は「非常に」というように、言葉の意味や使われ方が変わってきていることを読み、「時代とともに言葉の意味が変わる」という要旨を捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、【木村さんのメモ】のように、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉えることができるよう指導することが必要である。その際、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えることができるよう指導することが重要である。

また、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することの必要性を感じられるように、活動の目的や価値を明確にしておくことが大切である。例えば、対話の中で、友達と考えを伝え合ったり、自分の経験や知識を結び付けて考えたりしながら、文章を読む活動の目的を明確にできるようにすると効果的である。

また、第5学年及び第6学年の【知識及び技能】の(1)の「話や文章の構成や展開」と関連付けて指導することも有効である。

具体的な授業の例として、読む目的を明確にし、目的に応じて必要な情報を見付ける指導事例を、「授業アイディア例」の学習の見通しをもつ場面と必要な情報を集める場面に示す。

### 設問三(1)

#### 趣旨

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る。

#### ■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと  
ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

#### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型				反応率 (%)	正答
③ 三 (1)	1	1	と解答しているもの		5.2	
	2	2	と解答しているもの		33.8	
	3	3	と解答しているもの		41.0	◎
	4	4	と解答しているもの		16.4	
	99	上記以外の解答			0.2	
	0	無解答			3.4	

#### 2. 分析結果と課題

○ 令和5年度【小学校】国語②二（正答率67.6%）において、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」に課題があると指摘している。これに関連して、本設問では、【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄に当てはまるものを選択する問題を取り上げた。本設問の正答率は41.0%であった。今回の結果から、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題があると考えられる。

○ 解答類型2は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「『本来の意味』『本来とは違う使い方』といった言い方にとどめています。」と書かれていることを結び付け

ていると捉えており、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができなかつたと考えられる。この中には、「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「本来の意味」「本来とは違う使い方」であると考え、複数の資料を結び付けようとしたが、必要な情報を整理できなかつた児童がいたと考えられる。

- 解答類型4は、田中さんが、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「『言葉は生きている』とも言われます。」と書かれていることを結び付けていると捉えており、【資料4】に書かれていることと【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることを結び付けていると捉えることができなかつたと考えられる。この中には、「人によって言葉の意味のとらえ方がちがう」ことを「言葉の変化」と捉えて、「言葉は生きている」ことと関係があると考え、資料の内容の大体は捉えていたが、【話し合いの様子】の流れを捉えることができなかつた児童がいたと考えられる。

### 3. 学習指導に当たって

#### 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける

- 「必要な情報を見付ける」とは、文章の中から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることである。実生活において、児童は、図表を含む様々な情報に触れている。その中から、必要な情報を見付けるためには、文章と図表などの情報を合わせて読んだり、複数の資料を関連付けて読んだりすることが大切である。

本設問では、田中さんが【資料4】から、例えば、16～19歳の50.4%が「雨模様」を「雨が降りそうな様子」と捉えていることに対し、50代の61.2%が「雨模様」を「小雨が降ったりやんだりしている様子」と捉えていることを読み、【資料1】に「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」と書かれていることと結び付けて捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができるよう指導することが大切である。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。

具体的な授業の例として、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする指導事例を、「授業アイディア例」の必要な情報を集める場面と情報を関連付けて読む場面に示す。

学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

(参照)

「令和3年度【小学校】授業アイディア例」 pp. 7-8

<https://www.nier.go.jp/jugyourei/r03/data/21p.pdf#page=8>

### 設問三(2)

#### 趣旨

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る。

#### ■学習指導要領における内容

[第5学年及び第6学年] 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

#### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反応率 (%)	正答
3 三 (2)	<p>(正答の条件)</p> <p>次の条件を満たして解答している。</p> <p>① 言葉の変化について納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書いている。</p> <p>② 納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、以下のように言葉や文を取り上げて書いている。</p> <p>a 【資料2】、【資料3】のいずれかから言葉や文を取り上げて理由を書いている。</p> <p>b 【資料4】から言葉や文を取り上げて理由を書いている。</p> <p>c 【資料2】、【資料3】、【資料4】のうち複数の資料から言葉や文を取り上げて理由を書いている。</p> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>言葉は年月とともに変化するということになつとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あらたし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。</li><li>(解答類型1)</li><li>言葉の正ごを軽がるしく決めることはできないということになつとくしました。100年ほど前の作家は「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いていたそうです。時代とともに言葉の意味が変化するのなら、「正しい」「あやまり」といった判断はできないはずです。</li><li>(解答類型1)</li><li>「どんな言葉を使ってもいい、というわけではない」という部分を読んで、そのとおりだと思いました。なぜなら、世代によって「雨も様」の意味のとらえ方にちがいがあるからです。コミュニケーションの食いちがいが起こるとこまると思います。(解答類型2)</li><li>「言葉は生きている」ということになつとくしました。理由は、言葉は時代によって同じ言葉でも意味や言い方が変わるからです。また、同じ時代であっても、人によって意味のとらえ方がちがうことがあるからです。言葉はつねに変化していることが分かります。</li><li>(解答類型3)</li></ul>		

	1	条件①、②を満たしているもののうち、条件②については、aを書いているもの	36.3	◎
	2	条件①、②を満たしているもののうち、条件②については、bを書いているもの	10.1	◎
	3	条件①、②を満たしているもののうち、条件②については、cを書いているもの	10.1	◎
	4	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの	9.9	
	5	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの	10.3	
	99	上記以外の解答	7.2	
	0	無解答	16.1	

## 2. 分析結果と課題

- 令和5年度【小学校】国語[2]二（正答率67.6%）において、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」に課題があると指摘している。これに関連して、本設問では、言葉の変化について自分が納得したこととその理由をまとめて記述する問題を取り上げた。本設問の正答率は、解答類型1、2、3の合計の、56.5%であった。今回の結果から、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題があると考えられる。
- 解答類型1の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「言葉は年月とともに変化していくもの」という部分になつとくしました。なぜかというと、「あたらしい」という言葉を昔は「あらたし」と言っていて、言葉が変化したことが分かったからです。
- ・ 「『この使い方だけが正しい』と決めつけるのは短らく的ともいえる」という文になつとくしました。わたしは正しい使い方を自分で決めつけていましたが、資料3のよう、大正時代よりも前、「とても」という言葉は、今とちがって「どうしても、とうてい」という意味で使われていたこともあるので、決めつけるのは短らく的だと思ったからです。

このように解答した児童は、納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げ、納得した理由を【資料2】、【資料3】のいずれかから言葉や文を取り上げて書いている。この中には、時代とともに言葉が変化することなどに着目して、【資料1】を読んで納得したことの理由となる情報を【資料2】、【資料3】のいずれかから見付けることができた児童がいたと考えられる。

- 解答類型2の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 資料1の「言葉は生きている」という部分になつとくしました。資料4から、世代がちがうと言葉のとらえ方もちがうことが分かったからです。
- ・ わたしは、「コミュニケーションの食いちがいを放置しておくわけにもいかない」という文になつとくしました。人によって、言葉の意味やとらえ方がちがうと伝え合う時にこまると思うので、言葉は大切なんだと思いました。

このように解答した児童は、納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げ、納得した理由を【資料4】から言葉や文を取り上げて書いている。この中には、世代によって言葉の意味の捉え方に違いがあることなどに着目して、【資料1】を読んで納得したことの理由となる情報を【資料4】から見付けることができた児童がいたと考えられる。

○ 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 「言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっていたり、使い方が変わっていったりする場合は少なくありません。」という文になっとくしました。なぜなら、「あたらしい」という言葉の形が変化していたり、「とても」という言葉の意味が変化していたりしたからです。
- ・ 「言葉は生きている」という言葉になっとくしました。なぜなら、時代とともに、言葉の形や意味が変わっていて、言葉が成長しているように感じたからです。また、資料4では、世代によって言葉の意味のとらえ方がちがっていて、現代でも言葉が成長し続けていると思ったからです。

このように解答した児童は、納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げ、納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】のうち複数の資料から言葉や文を取り上げて書いている。この中には、時代とともに言葉が変化することなどに着目して、【資料1】を読んで納得したことの理由となる情報を【資料2】と【資料3】の両方から見付けることができた児童がいたと考えられる。また、【資料2】や【資料3】と【資料4】から【資料1】を読んで納得した理由を見付け、言葉の変化について、時代とともに変わることや世代による意味の捉え方の違いの両方の側面から考えたことをまとめることができた児童がいたと考えられる。

○ 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 意味のちがう言葉を使うとご解を招くから、確かにコミュニケーションの食いちがいを放置してはいけないと思いました。
- ・ 「『この使い方だけが正しい』と決めつけるのは短らく的ともいえる」という部分になっとくしました。なぜなら、言葉の正ごを軽がるしく決めるることはできないと考えるからです。

このように解答した児童は、納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書いている。しかし、納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】から言葉や文を取り上げて書いていない。この中には、「【資料1】を読んで納得したことをまとめる」という目的を意識したものの、【資料1】を読んで納得したことの理由となる情報を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から見付けることができなかった児童がいたと考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 資料2の「『ふんいき』ということばを『ふいんき』と言う人が多くなりました。」という文になっとくしました。
- ・ 雨も様の意味のとらえ方が人によってちがうことが分かりました。本来の意味は「雨がふりそうな様子」だけど、わたしは「小雨がふったりやんだりしている様子」だと思っていました。

このように解答した児童は、【資料2】、【資料3】、【資料4】から言葉や文を取り上げて書いている。しかし、納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書いていない。この中には、「【資料1】を読んで納得したことをまとめる」という目的を意識せず、【資料2】、【資料3】、【資料4】の情報のみを取り上げた児童がいたと考えられる。

### 3. 学習指導に当たって

#### 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける

- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが大切である。

本設問では、【資料1】と【資料2】、【資料3】、【資料4】を関連付けて読み、言葉の変化について納得したことを【資料1】から言葉や文を取り上げ、納得した理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から言葉や文を取り上げて書くことが求められる。

学習指導に当たっては、複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが重要である。その際、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが効果的である。

具体的な授業の例として、複数の資料を結び付けたり、文章と図表などを結び付けたりしながら必要な情報を明確にして読む指導事例を、「授業アイディア例」の情報を関連付けて読む場面に示す。

## 本問全体の学習指導に当たって

### 授業アイディア例

「言葉の変化について調べ、分かったことをもとに自分の考えをまとめよう」 ～目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける～		〈実施対象学年〉 第5・6学年
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られました。そこで、本授業アイディア例では、令和7年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語 <sup>3</sup> の学習の流れに沿って、課題に応じた三つの場面（学習の見通しをもつ場面、必要な情報を集める場面、情報を関連付けて読む場面）を取り上げて、指導事例を紹介します。		
<b>学習の流れ</b>	<b>主な学習活動</b>	<b>指導上の留意点</b>
言葉の変化について複数の資料を読む	<ul style="list-style-type: none"><li>① 「言葉の変化について自分の考えをまとめること」という学習の見通しをもつ。</li><li>② 学級全体で言葉の変化について書かれた【資料1】を読む。</li><li>③ 【資料1】を読み、自分が疑問や興味をもったことについての情報を集め、要旨を捉える。</li><li>④ 文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を明確にして読む。</li><li>⑤ 調べて分かったことを基に自分の考えをまとめること。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 言葉の変化について、聞いたり考えたりした経験を出し合う。</li><li>■ 文章全体を通して、何がどのように書かれているかを捉えさせるようにする。</li><li>■ 一人一人の疑問や興味を把握し、必要な情報を集めるための方法を提示する。</li><li>■ 言葉の変化について自分の考えをまとめるために、【資料1】と複数の資料を関連付けて、必要な情報を見付けることができるようとする。</li></ul>
◇ 森さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読んでいます。		
<p>「コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。」という文が、理解しづらかったんだ。きっと、言葉の変化のせいで、コミュニケーションがそれなくなっているという意味だと思うけれど、具体的にどんな言葉で食い違いが起きるのか知りたいな。★A</p> <p>田中さん</p> <p>そういうふうに、ひいおばあちゃんが「かわやはどこ。」と聞いたことがあったなあ。ぼくが「かわやって何。」とたずねたら、お父さんは「便所のことだよ。」と教えてくれたなあ。ぼくはトイレって言うんだけどな。だから、【資料1】の「言葉は年月とともに変化していくもの」をもっと詳しく調べたいと思ったよ。★B</p> <p>木村さん</p> <p>うーん。ぼくは「言葉は生きている」という文が気になったよ。★C</p> <p>森さん</p> <p>【資料1】</p> <p>言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっています。しかし、意味や使い方に搖れが生じている言葉について、「この使い方が正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤を軽々しく決めるることはできないと考えるからです。言葉の正誤を軽々しく決めるることはできないと考えるからです。</p>		

学習の見通しをもつ場面	【資料1】を読んで、一人一人が疑問や興味をもつ
◇ 森さんたちは、【資料1】を読んだ感想や内容について、友達と交流しています。	
<p>森さんは、もっと知りたいことやなんでだろうと疑問に思うことはなかったのかな。</p> <p>木村さん</p>	
森さん	なかったよ。そなんだあと思ったよ。
<p>森さんは、言葉について似たような経験をしたことがあるかな。</p> <p>田中さん</p>	
田中さん	古典の学習で「をかし」って言葉の意味が今とは違う意味だってことを知って、言葉は変わっていくんだなと思ったよ。
<p>確かに【資料1】を読むと、言葉は変化していることが分かりますね。この資料を書いた筆者は、どのような考えをもっているのでしょうか。</p> <p>教師</p>	
教師	「言葉は生きている」と言われるから、広がりや深さに触れていくことが大切だということかな。
<p>言葉は生きているとは、例えば、どういうことだろう。</p> <p>木村さん</p>	
木村さん	確かに。説明しようとしたら、難しいかもしれない。ぼくは「言葉が生きているとはどういうことなのだろう」ということについて調べてみようかな。
<p>読む目的を明確にする⇒一人一人が疑問や興味をもてるようにするための手立ての例</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の経験や知識と結び付ける。共通点・相違点に気付く ⇒「もっとくわしく知りたい」「これは今までとどう違うんだろう」</li> <li>○ キーワード（重要な言葉や文）に着目する。曖昧な言葉をはっきりさせる ⇒「なぜこの言葉が使われているのだろう」「どういう意味なんだろう」</li> <li>○ 要旨を捉える。筆者の考えとのずれに気付く ⇒「筆者はどのような考えをもっているのだろう」「重要なことはなんだろう」</li> <li>○ 考えや感想を共有する。異なる考え方や感じ方に触れる ⇒他者の考え方や感想に触ることで、新たな問い合わせが生まれる可能性</li> </ul>	
<p>【資料1】を読んで、一人一人が疑問や興味をもてることが大切ですね。次は、その疑問や興味を明らかにするために、ほかの資料を探していきましょう。</p> <p>教師</p>	
<p><b>ポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本授業アイディア例では、【資料1】を読んで疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことを基に考えをまとめるという流れで学習を進めます。その際、まずは共通資料である【資料1】の内容を捉え、そこから一人一人が疑問や興味をもてるようになりますが重要です。対話の中で友達と考え方を伝え合ったり、自分の経験や知識を結び付けて考えたりすることで、一人一人が疑問や興味をもち、目的意識をもって学習に取り組む姿が期待されます。</li> </ul>	

必要な情報を集める場面	自分が疑問や興味をもったことについての情報を見付ける
-------------	----------------------------

◇ 森さんの学級では、【資料1】を読んだ後、自分の疑問や興味についての必要な情報を集めることにしました。

 森さん どうやって資料を集めたらいいんだろう。

 教師 必要な情報を集めるにはどうしたらよいのでしょうか。みんなで考えてみましょう。

 春田さん インターネットで調べてみるといいと思います。

 夏井さん 友達やお家の人が何か情報をもっているかもしれないから、聞いてみたいと思います。

 秋本さん 私は、よく図書館へ行って調べます。司書さんに相談したりもします。

いろいろな情報の集め方がありますね。自分に合った方法で情報を見付けられるといいですね。キーワード検索するときには、言葉を言い換えたり、複数の言葉を挙げたりすると、よりぴったり合う情報を得ることができますね。

**インターネットで情報を集める**

 インターネットで調べてみよう。


**Sagasou**  
  

- 言葉 生きている
- 言葉 生きている 意味
- 言葉 生きている 理由
- 言葉 生きている 本
- 言葉 生きている 言語

ぼくは「言葉は生きている」という言葉が気になったな。「言葉」「生きている」を検索窓に入力しよう。

\*インターネットで調べるときには\* 気になる言葉(キーワード)を検索窓に入力する。キーワードを入力すると、検索の候補が出てくるので、知りたいことを選べる場合もある。

たくさん出てきたけど、どの情報がいいのかな。「意味」「理由」「言語」も気になるな。

**友達から情報を集める**

 秋本さん、「言葉は生きている」ということについて調べたいんだけど、何か、よい資料はないかな。

 私は、図書館に行って、調べてみたよ。国語辞典の編纂者の飯間浩明さんが書いている本を見付けたから、その本も読んでみたいと思ったよ。

 ありがとう。図書館に行ってみようかな。

## 図書館で関連する本を探す



「言葉」に関する本は、8類だな。その棚を見てみよう。

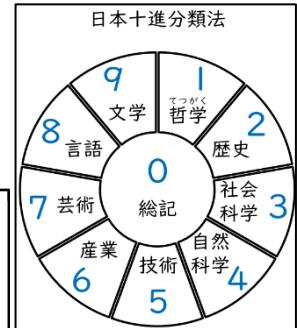
森さん



この本がおもしろそうだな。まずは、目次を見てみよう。

### \* 関連する本を探すときには\*

- ・目次や索引を活用する。
- ・同じ作者や筆者が書いた本を探す。
- ・図書館の検索機やインターネットを使う。
- ・司書の先生に聞く。



なかなか見付からないな。司書の先生に聞いてみよう。

ぼくは、「言葉は生きている」ということについて、調べたいと考えているのですが、どのような本を読めばよいですか。



蔵書検索をしてみましょう。「生きている」とは「変化」という言葉に言い換えられるかな。キーワード検索で「言葉」「変化」と入力してみましょう。例えば、文化庁からこんな資料が出ていますね。



ありがとうございます。目次を見ると、「年齢別の言葉の使用」というページがありました。ぼくが考えたい「言葉は生きている」とことと関連することが書いてありそなので、読んでみます。

## 文章を読み、要旨を捉えて、必要な情報かを確かめる



文化庁の資料（【資料5】）には、気になることが書いてある。線を引いたり、丸で囲んだりしながら読んでみよう。

調査結果によると、およそ50%の人が新しい意味で「推し」という言葉を使っていることが分かるよ。「言葉は生きている」ということに関連しそうだな。

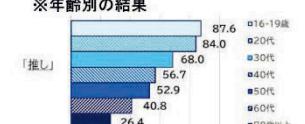
### \* 要旨を捉えるには\*

要旨とは、筆者が文章で取り上げている内容や考えの中心となる事柄などである。要旨を捉えるためには、全体の構成から事実と感想、意見などの関係を押さえることが大切である。

資料5 「推し」を使うことがある  
「気に入っている人や物」といった新しい意味で「推し」と言う

49.8 49.2 0.9  
■使うことがある ■使うことはない ■無回答

※年齢別の結果



p.38

## ポイント

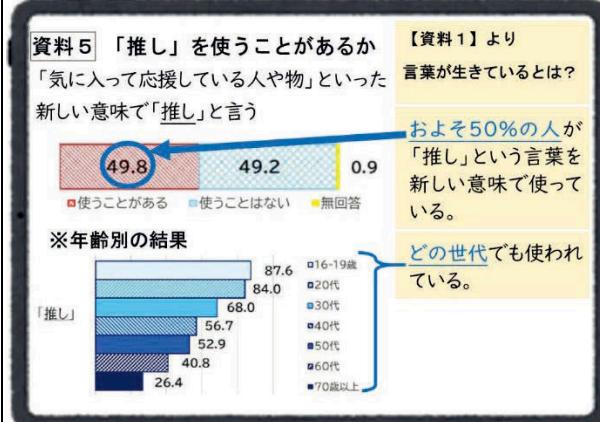
- 情報を集めるためには、本やインターネットで調べたり、司書に相談したり、他者と情報交換したりする等、様々な方法が考えられます。教師は、情報を集めるための十分な時間や環境を設定する必要があります。
- たくさんの情報の中から必要な情報を見付けるには、気になる言葉を手がかりに、資料を収集し、その資料に書かれている文章の要旨を捉えた上で、必要な情報かを確かめることができます。手がかりとなる言葉を捉えることに課題がある児童に対しては、言葉の言い換えや具体的な説明を促し、児童が自分なりの考えをもつことができるようになります。

## 情報を関連付けて読む場面

複数の資料を結び付けたり、文章と図表などを結び付けたりしながら必要な情報を明確にして読む

◇ 森さんは、見付けた【資料5】から分かったことを【森さんのメモ①】に整理しました。【資料5】と【資料1】を関連付けて分かったことをまとめたため、友達と話し合っています。

### 【森さんのメモ①】



【資料1】より  
言葉が生きているとは?

およそ50%の人が  
「推し」という言葉を  
新しい意味で使っている。

どの世代でも使われ  
ている。

【資料1】より  
言葉は年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなったり、使い方が変わっていたりする場合は少なくありません。ですから、意味や使い方に掃れが生じている言葉について、「この使い方が正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤を軽々しく決めることはできないと考えるからです。また、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。言葉は生きているとも言えます。その広がりや深さにも触れていただきたいと考えています。

### 【資料1】

森さんは、なぜ【資料5】を選んだのかな。



【資料5】は、「『推し』を使うことがあるか」という資料なんだけど、およそ50%の人が新しい意味で使っていると分かったから、「言葉は生きている」と関連した資料だと思ってこの資料を選んだんだよ。



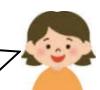
春田さん

「年齢別の結果」のグラフも【資料1】の文章と結び付けて読むことができるんじゃないかな。



田中さん

確かにそうだね。「推し」を使っている人は若い人が多いけど、60代、70代の人も使っているね。このことから、どの世代にも使われている言葉だということが言えそうだね。



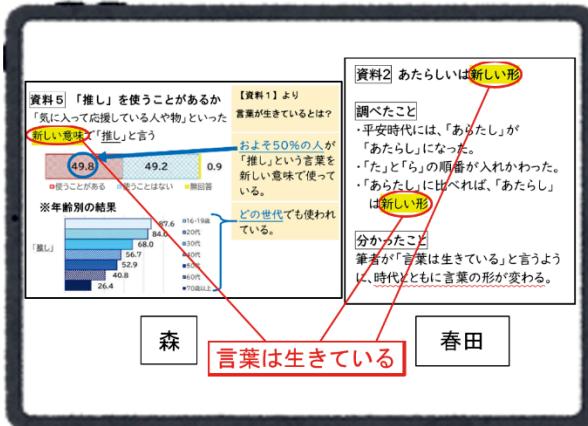
そうか。新しい意味が多くの人たちに親しまれているように、言葉は変わらながらも、いろんな世代に受け入れられていることが、「言葉は生きている」につながっているんだ。



教師

丸や四角で囲んだり、線でつながりながら、【資料1】の文章と見付けたグラフや図表などの資料を関連付けて読むことで、必要な情報を整理することができました。それでは、言葉の変化について調べて、分かったことを交流しましょう。

### 【森さんと春田さんの共有ノート】



### \* ICT 端末の効果的な活用\*

資料から読み取った内容を伝え合う場面では、ICT 端末の活用が効果的である。それぞれがまとめたメモを一つの画面で共有することで、協働的に必要な情報かどうかを確かめたり、それぞれのメモを結び付けたりしやすくなる。また、メモの比較を通して、共通することや異なることなど、新たな気づきが生まれやすくなる。

森さんと同じ「言葉は生きている」ということについて調べる中で、私は【資料2】を見付けたよ。その資料には、「あらたし」が「あたらし」に変わったという例を出して、時代とともに言葉の形が変わることが書いてあったよ。



二人とも違う資料ですが、【資料1】で関心をもったことは同じですね。二人が選んだ資料も関連付けて読むこともできそうですね。



ぼくの【資料5】には「新しい意味」、春田さんの【資料2】には「新しい形」と書いてあり、それぞれに「新しい」という言葉が使われているよ。世代や時代によって、意味が加わったり、書き表す形が変わったりすることを「新しい」と表現しているんだね。それを、ぼくたちは「言葉は生きている」と感じたんだね。

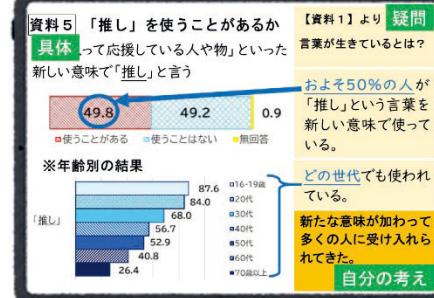
教師

「新しい」という共通の表現に着目し、二人が関心をもっていた「言葉は生きている」という意味に気付くことができましたね。では、改めて言葉の変化について自分が考えたことを、【資料5】に書かれていることと関連付けて、まとめてみましょう。



ぼくは、【資料1】にある「言葉は生きている」ということが気になりました。そこで、【資料5】を読みました。【資料5】には、「推し」という言葉を例に、新しい意味はどの世代の人たちにも親しまれていることが書いてありました。このことから、「言葉は生きている」とは、言葉は世代や時代によって新たな意味が加わって、多くの人に受け入れられてきたことだと考えました。

### 【森さんのメモ②】



【森さんのメモ②】を見てみましょう。森さんは、【資料1】で疑問をもったことについて、【資料5】を読みました。【資料5】に具体的に書いてあることに気付き、もう一度【資料1】を読み返したことで、自分の考えをまとめることができましたね。

また、森さんのように、考えをまとめた過程を自分の言葉で整理して説明することも、とても大事なことですね。



### 情報を整理したり、再構成したりして読むための視点(例)

※複数の資料から必要な情報を見付ける際に、それぞれの資料がどのような関係にあるのか明らかにすることが大切です。その際、児童に次のような視点をもたせることがよいでしょう。

- |  |   |
|--|---|
| ○ 共通の関係<br>⇒筆者の言いたいことは、それぞれ同じだね。         | ○ 考えと理由や事例の関係<br>⇒資料Aのことが、資料Bに具体的に書いてあったよ。      |
| ○ 相違の関係<br>⇒二つの資料を比べると、筆者の考えが全くちがうよ。     | ○ 全体と中心の関係<br>⇒資料Aには、年表Bの出来事の中心的な内容が書いてあるよ。     |
| ○ 順序の関係<br>⇒年号に着目すると、Aの資料がBの資料より先の出来事だね。 | ○ 原因と結果の関係<br>⇒資料Aのようになったのは、資料Bに書いてあったことが原因なんだ。 |

### ポイント

- 複数の資料を結び付けて読むためには、資料が文章の場合でも、図表やグラフと同じように丸や四角で囲んだり、線などでつなげたりするなどして、どの部分と結び付くのかを明らかにしながら読むことが大切です。その際、他者との対話を通して、児童自身が読む目的に立ち返り、必要な情報を再確認して資料を読み直すことが必要です。
- 本授業アイディア例で示したように、友達との対話を中心とした協働的な学習場面を設定し、その上で、教師が児童の発言を価値付けるような指導が重要です。また、低学年からの学びの積み重ねを大事にし、系統性を意識した資質・能力の育成を心がけましょう。

## ※出典等

本問の【資料1】は、文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』（2015年12月幻冬舎）による。【資料2】、【資料3】は、飯間浩明『日本語をつかまえろ！』（2019年11月毎日新聞出版）による。【資料4】は、文化庁国語課「令和4年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」による。問題作成の都合上、一部表記を改めたところがある。

授業アイディア例（pp. 71-76）の【資料5】は、文化庁国語課「令和4年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」を参考にした。